

公式訪問ガバナー卓話

こんにちは。2017-2018 年度ガバナーの岡本浩です。本日は公式訪問の機会を設定いただき、ありがとうございます。さて、今年度ガバナーとして何を指すかについて、述べさせていただきます。先ず、今年の R I 会長テーマは、「変化をもたらす」です。これは、ロータリーの活動により、社会への良い変化をもたらす活動を追求しようということと解されます。また、そのような活動により、ロータリー自体も変化をする、さらにはロータリーの会員自身にも良い変化をもたらそうということだと解されます。次に、当地区の指針は、「ロータリーの原点を再確認し、2640地区の新たな飛躍を」とさせていただきます。これは、ロータリーとは何かをしっかりと再確認し、その基盤の上に地区をしっかりと構成し、さらに飛躍を目指そうということです。そのためには、月信第1号に「地区の基本的構造と各々の役割」として図示したような地区の有り方を追求することが大切です。そして、この図の中では、月信を地区・ガバナーと会員を結ぶ血管・血流と捉えています。紙媒体で配布される月信を地区情報を会員に伝える手段として重視していきたいと考えています。それでは、このような地区組織の上に立って、目指すべきロータリー、言い換えればロータリーの原点とは何かについてを述べてみます。それは、4つのテストに示される倫理・行動基準に則った職業奉仕の理念を追求する職業人の集まりがロータリークラブであり、そのような個人が例会に集うことで互いに刺激し合い学び合う場である例会を会員に提供することこそ、ロータリーの原点だということだと思えます。したがって、ロータリーは、大人の学校と言えます。そして、学校であるロータリーへ皆が集うには、ロータリーは楽しく友情が育つ場である必要があります。なお、職業奉仕とは何かを一言で言うなら、個人々の職域において、4つのテストに示される倫理を貫いた職業活動を行ない、その職業領域において、一番に尊敬される職業人を指すということだと思えます。例会を通じての互いの人格的成長・向上と、職業を超えての友情と信頼の形成こそ、ロータリーの真髄と言えます。何か一つ、どこか一つ、参加した会員の記憶に残るような充実した例会になるよう努力し、その積み重ねにより会員の向上を図っていくようなロータリー活動を作っていきます。

